

この「ワインボトル」という存在。

中にワインが入っている間は、保存場所や温度、湿度にまで気にかけて大事にされるものの、ワインは何よりも好き！と言う人にすら、飲んでしまった後では重くて邪魔なゴミとして疎まれるという、哀しい宿命を持つものなのです。

これではあまりにも空ビンが可哀想だと思い、以前、故紙の再生活動に協力した経験から、ガラスの空ビンも再利用制作によって輝けるセカンドライフは可能だと考えたのです。ガラスは化成素材です。役目を終えた古ビンも、地場の

中で再びトトロに溶かせば、また別のモノに生まれ変わることが出来ます。それも例えば、美しいテーブルウェアに変身して後輩ワインが脚光を浴びる同じテーブルの上で再活躍することができれば・・・ワインラヴァーの心の慰めにもなるかと思い、ワインボトルの「リヴァイヴ製作」に乗り出したのです。ワインへのオマージュです。

しかし、ガラスの基礎知識を持たない私には、そんなに甘い簡単な話ではありませんでした。この再生ガラスの制作は、いつでもどこでもできるという単純なことではなく、このガラスが本質的に持つ驚きの深刻な問題に跳ね返されてしまったのです。ガラスの工芸工房では原料の素材に気を配り、ワインボトルのような工業生産ガラスは異物と見なされて工房に持ち込むことを嫌い、ましてやそれを工房の垣塙に受け入れることなどあり得ないのです。

ガラス仲間なのにこの差別・・・この不条理・・・

では、可哀想なボトルのこの難問は、その後どう進展したか？
・・・この話の続きは、ぜひ会場で！



麴谷 宏 (こうじたに・ひろし) www.kojitani.jp

- 1959-66 ●銀座松屋宣伝部に在籍。広告デザインに熱中、受賞多数。
- 1967-70 ●フランス「デルピール」へ移籍。パリ在住。ワインを知る。
- 1972 ●自然食品構想「農協牛乳」をデザイン。自然ブームを起こす。
- 1980 ●「無印良品」企画・開発に参画。シンプルなデザインによる時代のライフスタイルを提案。
- 1982 ●社団法人日本ソムリエ協会より「名誉ソムリエ称号」を受称。
- 1995 ●ヴェネチアのムラノ島でガラス制作を始める。
- 1998 ●遊びの茶「ワイン茶会」を創案。茶道誌「なごみ」に発表。
- 2000 ●フランス政府よりワイン文化の啓蒙活動功績により民間人である初となる「農事功勞シユヴァリエ勲章」を受勲。
- 2000 ●沖縄サミット元首晩餐会にワインデキャンタを公式招待制作。
- 2005 ●ワインボトル再生制作構想を発表。茶会などに応用出品。
- 2010 ●奈良東大寺二月堂にて「桜とワインの茶会」主宰公演。
- 2012 ●現代の前衛茶の湯活動などにより「茶道文化振興賞」受賞。



展覧会中に会場で開催する記念イベント。お申込みはこのシートで FAX03-3868-0036へ、このままどうぞ。

記念ガラス茶会 「六志会」＝立礼茶会

ワインで始まるガラスづくしのカジュアルなお茶遊びなので、お茶の何の知識も経験も不要です。お茶は三碗の楽しい「闘茶」。点心は不思議な味比べ。椅子に座ってお茶とワインとガラスの作品で点心を召上がっていただき、お使いになったガラス作品はそのままお持ち帰りいただきます。

会費：¥ 28,000 (展示ガラス作品1点付き)

9月 5日(木)、6日(金) 13時、16時 (ご希望に○印を)

お名前 _____ ご同伴 _____

確認連絡用FAX _____

緊急連絡用携帯 _____

「スシ on the ガラス」銀座「寿司幸」＝杉山 衛

展示中の新作ガラスプレートは、日常の食卓のアイドルに、と願って制作したものです。シャンパーニュとともに友情出演の銀座「寿司幸」主人、あの杉山衛さんがトークとともに握る「ゴ・エ・ミヨ」がこれぞ江戸前と称えた寿司を、このお皿でどうぞ。お使いのガラス作品はそのままお持ち帰りいただきます。

会費：¥ 39,000 (展示ガラス作品1点付き)

9月 9日(月)、10日(火) 13時、16時 (ご希望に○印を)

お名前 _____ ご同伴 _____

確認連絡用FAX _____

緊急連絡用携帯 _____

お申込後、当方より確認FAXが届かないと参加できません。確認FAX未着場合などのお問合せ 090-3139-6539 (こうじたに)